

『PSAPPHA(プサッファ)』

2024年1月27日(土)/美術館ホール

20世紀の偉大な作曲家ヤニス・クセナキスの楽曲を題材に、古代ギリシャの詩人サッフォーの軌跡を描いたミュージック・シアター『PSAPPHA(プサッファ)』。パーカッションとダンスによる本公演は、高知公演が世界初演となりました。本紙では上演後に実施したトークイベントの一部をご紹介します。

聞き手・福島尚子(当館企画事業課チーフ)

Q ミュージック・シアターと名付けて上演しましたが、どのようにこの作品を着想されたのでしょうか?

加藤 観る音楽、として作品を創作しました。タイトルにもなった『PSAPPHA』という曲は20分ほどのパーカッションのソロの曲です。難しい曲だと感じつつ、いつかは取り組みたいと思っていました。この曲からは自然とステップが連想されました。そこで、せっかくならこの曲を膨らませてひとつの作品を作りたいな、と思ったのがきっかけです。

加藤訓子さん
(パーカッション)

Q 中村恩恵さんは、サッフォーの文献などを細やかにリサーチされたと伺いました。どのようなところが印象的でしたか?

中村 『プサッファって何だろう?』と思って辿っていくと、サッフォーのこと(アイリオス方言の読み方)なんだ、と。そこで初めてその存在を知りました。とても有名で女流詩人の代表格のような方なんですね。存命中とても評価されていたにもかかわらず、時代の中で弾圧されたり、作品も焼き払われたりされながら、断片的であっても作品が残ってきたことを知って。私自身、芸術的な着想と宗教的な観念がせめぎ合う苦しさを抱えることがあります。そういう解決したいけどできない個人的で深いテーマも作品に向けていきたい、と思ったのが動機のひとつです。

Q そのような中村さんの内面の苦悩やアイデアが作品に昇華されているのだな、と公演を観て感じました。

一方、この作品では音楽とダンスのシンクロや反発といった、音と動きの関連性もとても興味深く感じました。

中村 加藤さんの演奏する姿はダンスを踊っているようにも感じられて、とても惹きこまれます。だからこそ、二人で舞台に立つときに、お互いの身体性がお互いの魅力を損ねないように注意しないといけないな、と思ったことがあります。



撮影:鈴井泰輔



撮影:鈴井泰輔

Q お二人の信頼と作品への探求心から、ひとつの作品を遠慮なく一緒に作っていける関係性だと感じました。

加藤 お互い共通するところがあるからでしょうか。クセナキスの音楽がストイックで、なかなか難しいことを中村さんに要求することになるな、と思いながら出演をお願いしたのですが、パーカッションのソロに、ダンスのソロで、というリクエストを受けてくれたのも嬉しかったです。この作品を高知県立美術館でできたというのは歴史的なことだと思いますし、(中村さんとの)長い関係性の中で蓄積されたものがあったからこそ、こういう作品に結実できたと思っています。

グラビティ&アザミス『バックボーン』

2023年9月30日(土)、10月1日(日)/美術館ホール

オーストラリアはアデレードを拠点に、世界各地で公演中のグラビティ&アザミスによる現代サーカス公演『バックボーン』。当初は2020年に上演する予定が、新型コロナウイルスの影響を受け、3年の時を経て上演に至りました。高知のみの来日公演となりましたが、両日とも県内外からたくさんの方にお越しいただきました。空中ブランコのように人から人へと飛び移ったり、舞台上空の照明機材に届きそうな人間タワーを作ったりと、人の身体能力の限界に挑むようなスリルと迫力にみちたパフォーマンス!客席からも息を呑む音や歓声が沸き起こり、まさに出演者と客席の皆様が体験を共有するひとときでした。文・福島尚子(当館企画事業課チーフ)



撮影:鈴井泰輔

KENBI LETTER

高知県立美術館通信 ケンビレター



2023年度新規収蔵作品

竹崎和征+西村有《twin boat songs #30》

2021年/パネル、コットン、油絵具/51.5×44.0cm/撮影:岡野圭

雲の浮かぶ高い空、飛ぶ鳥たち、遠くの山、木々、そして原っぱ。やわらかく淡い色遣いを基調とした架空の風景が画面いっぱいに広がります。モチーフの描写は簡潔ですが、空の所々で見られるコントラストの強い白色や原っぱの黄緑色が全体を引き締めています。また、しっとりした濃い塗りや掠れた線など、さまざまな質感の筆致が混在する画面はリズミカルで、詩的な情趣すら漂わせます。

本作は、画家の竹崎和征と西村有による共同制作プロジェクト「並行小舟唄(ならびゆくこぶねうた)」によって生み出された共作絵画のひとつです。「ふたりで描くこと」だけをルールとする並行小舟唄の制作プロセスは実にユニーク。カンヴァスを郵送しあってそれぞれの拠点で描くこともあるれば、同じ空間でカンヴァスをはさんでふたり交互に筆を入れることもあります。ちなみに本作は後者の方法で描かれました。一方の描写に応えて他方が筆を入れ、まるでボードゲームの対戦のように相手の出方を見ながら進めるからこそ、並行小舟唄の絵画におけるイメージはどのような変化を遂げるかが最後までわかりません。そんな彼らの制作でもっとも興味深いのは、「終わり」の判断が一致すること。つまり、本作は完成地点を共有できる稀有なふたりだからできる、絵画実験の成果として見ることもできるのです。

文・塙本麻莉(当館主任学芸員)

*本作の作家のひとり、竹崎和征さんは2024年6月22日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

館長挨拶

2024年3月末をもって、当館館長の藤田直義が退任し、4月から安田篤生新館長が着任しました。
新旧両館長からのメッセージをご紹介します。

退任のご挨拶

17年間勤めました館長職を、本年3月末をもって退任いたしました。前任の篠館長の突然の退任の後を受け不安いっぱいの船出でしたが、皆様の応援で今日まで勤めてまいりました。感謝申し上げます。私はもともと地元の地方銀行・四国銀行の出身で、30年前に高知県立美術館アートコーディネーター兼高知県文化財団職員として採用されました。最初の仕事として高知県文化財団の決算を徹夜で処理したことを覚えています。それから30年美術館ホールの企画を中心につづき、最初の舞台公演として「維新派」(1994年)を取り上げ成功したことがその後の道筋を決めました。地元の劇団で演劇を制作しソウルで公演したことや海外芸術祭や見本市に参加するきっかけになりました。それが海外からの単独招聘や共同招聘につながり、やがて「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」(2013年)を始めとする国際共同制作へと発展しました。映画上映では、それまでばらばらに輸入され上映されていた韓国のキム・ギヨン監督作品を、一挙に権利取得し2020年に上映する企画を実現できたことも印象深いです。近年は、文化庁のアートキャラバン補助金を活用し、県内の市町村や市町村立文化施設、地域NPO等と連携し、県内各地で芸術文化事業を実施し、「地域と世界の双方に開かれた窓」という目標に近づくことができました。これからも高知で、日本で見ることができなかった芸術作品を見られることを期待しております。長い間どうもありがとうございました。

藤田 直義



就任のご挨拶

4月1日付けで奈良県立美術館副館長から高知県立美術館の第4代館長に就任いたしました。今まで四国とは縁がなく(強いて言うと父が淡路島出身)、前任の藤田さんからお話を頂いた時には驚いたのが正直なところです。ただ、初代の鍵岡さんや第2代の篠さんは高知県美ができる以前から存じ上げており、これも何かのめぐらわせでしょうか。昨年30周年を迎えた高知県立美術館は、美術だけでなく舞台・映画も含めた幅広い芸術を国内外問わず扱い、遠方から見ても魅力的な活動を続けてきました。私は37年間の学芸員生活で数多くの展覧会を担当してきましたが、写真展を手がけることが多かったので、石元泰博フォトセンターの設立と活動にも注目していました。歴代の館長・スタッフが積み重ねてきた経験を生かし、これからも内外の近現代芸術や地域ゆかりの作家など、さまざまな芸術体験をみなさまにお届けできればと考える次第です。私はこれまで関西と首都圏、公立および私立とさまざまな美術館に勤め、短期間ながらアメリカの美術館にも客員で在籍したことがあります。特に、高知県立美術館の現代美術コレクションや舞台公演の内容は、25年余り勤務した原美術館の活動と重なる部分があります。微力ながら経験を生かして努力していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

安田 篤生



美術館のお仕事

地道な作業をコツコツ!

01 石元泰博コレクションの整理作業

当館の「二大コレクション」のひとつである「石元泰博コレクション」。その大部分を占めるのが、高知ゆかりの写真家・石元が手焼きしたプリント群です。その数はなんと約3万5千点。当館の館蔵作品の8割以上を占めているのです。これら一枚ずつ確認して仕分け、ナンバリング、複写し、保存用の包材に入れ替える、という途方もない作業が、当館学芸員や複数の作業員のチームによって、数年がかりで実施されてきました。2019年度にはこれまで蓄積してきた作品情報をすべてクラウドデータベース上に統合し、タイトルや撮影年といった調査成果の集約や、館内外の展覧会へ出品するための迅速な出納とその記録などを効率的に行えるようになりました。そして現在は、新たに「RFIDタグ」の導入に取り組んでいます。RFIDとはRadio Frequency Identification(無線自動識別)の略で、タグに電波を使ってデータを読み書きし、物品の識別や管理をするシステムのこと。図書館や衣料量販店の蔵書・在庫管理などにも活用されています。本システムは、この大写真コレクションを管理する上でも有用のではないかと思い立ち、県庁職員や地域のNPOの協力も得て、昨年度より作業が開始されました。タグ用データの作成や、タグの仕分け、個々のプリントへの貼付作業が日々と進んでいます。国内の美術館ではほとんど導入実績がないため、試行錯誤をしながらの実験的な試みとなりますが、効率的な作品管理が可能となれば、国際的に高い評価を受ける石元作品をより広く伝え、より深く研究することに繋げることができます。地道な作業が続きますが、大きな可能性を秘めた写真コレクションのため、根気強く取り組んでいきたいと思います。



作業はミスが無いよう必ずペアで行います

文・朝倉芽生(当館学芸員)

02

石川寅治作品調査 in 台湾

2023年10月、高知市出身の洋画家・石川寅治(1875-1964)の調査のため、台湾に出張してきました。石川が活躍した明治から昭和にかけて台湾は日本の統治下にあり、当時、石川以外にも多くの画家が台湾を訪れ、また台湾の画学生も日本に留学していました。石川は4回の渡台にて、台湾総督府(現・台湾総統府)の壁画(現存せず)、現地の風景や風俗を題材にした作品を描き、旅行記を書いていました。今回の調査では、石川作品を所蔵している高雄市立美術館と、石川を含む日本人・台湾人作家の展覧会「時代風景」を開催した李梅樹記念館を訪ね、作品の実見や情報交換を行い、有意義な調査となりました。そしてひたすら現地の美術館・博物館に足を運びました。故宮博物館の名品、台湾の近代美術を概観するような展覧会、日本に留学した台湾作家の展示などを見て、歴史を感じる一方、映画監督や現代アートの展示はプロジェクトやモニターを使しており、デジタル先進国としての姿も垣間見ました。日本からの直通便が増え(高知からも!)、食べ物もおいしく、気軽な旅行先として人気の台湾は10月といえまだ暑く、特に南部の高雄市を歩いたときは汗が噴き出すほどでした。今回、石川ゆかりの地を訪れて、現地の文化や熱気にふれ、作家が滞在した当時に思いを馳せる旅となり、新たな知見が深まりました。今後の当館での展覧会実現に向けた妄想を膨らませています。

文・柳澤宏美(当館学芸員)



台湾総督府(旧台湾総督府)



李梅樹記念館では館長に案内もらいました



石川が描いた台北門



台北市立美術館



国立台湾美術館

台湾グルメも堪能!



#04 甫木元空「窗外1991-2021」

甫木元空展。開催後に疲労で寝込んだのはこの時が初めてである。学芸員の仕事は、通常展覧会の開幕が一区切りとなる。しかしこの時はそうはいかなかった。まず、開幕直後の関連企画「はだかのまど」。映画作家に加えてミュージシャンの顔も持つ甫木元さんたっての希望で、シンガーソングライターの前野健太さんとのライブを行うことになった。なるほど、作家の多岐にわたる活動を紹介することは重要だろう。しかし……ライブ? 筆者は展覧会開催のセオリーは知っていても、ライブ公演のそれはよくわからない。結果、当館企画事業課の職員、ホールの音響・照明担当の方々の全面的なフォローを受けながらなんとか開催に漕ぎつけた。こちらの追迫した状況とは裏腹に「はだかのまど」は成功をおさめ、来場者アンケートの反応も上々。何より、ふたりの軽妙な掛け合いのもとで繰り出される歌声は来場者の方々のみならず、担当者の疲れきった心を確実に癒してくれた。さらに、もうひとつの関連企画「爆音映画祭」も忘れない。大好評の催しだったが、実は上映作品が決まるまでにかなり時間がかかった。甫木元さんが当初提案した候補作は、日本国内での上映権が軒並み権利切れ。絶縁曲折を経て絞り込んだ作品の上映料でも調整が難航した。さらに上映作品の確定が遅れたため、映画祭広報物の作成が展覧会の作り込みの時期と綺麗にバッティング。展覧会、「はだかのまど」ライブ、爆音映画祭など、一連のPRデザインを手掛けたデザイナーの重生実哉さんと「次は何を作ればいいんだっけ?」と謙譲しながら、ぎゅうぎゅうのスケジュールを駆け抜けた。しかし今思い返すと、とても充実した日々だったようにも思う。寝ただけだ。

文・塚本麻莉(当館主任学芸員)



展覧会
2023年12月16日[土]～
2024年2月18日[日]
当館展示室D

「はだかのまど」
甫木元空+前野健太ライブ
2023年12月17日[日]
美術館ホール

爆音映画祭 IN 高知県立美術館
2024年1月20日[土]・21日[日]
美術館ホール

ライブ「はだかのまど」の前野さん(左)と甫木元さん(右)
Photo by Yumi Yamasaki

文 奥野克仁(当館学芸課長)

昨秋開催した開館30周年記念展「そして船は行く」では、当館のすべての展示室を使用し、当館の主要なコレクションをご紹介しました。「こんなものもあったのか」「初めて見たい」というご意見を多數頂戴したこともあり、今年度から、より多くの名品をご覧いただけるよう、コレクション展示を刷新することいたしました。これまで第一展示室(展示室A)では主にシャガールの作品だけを展示してきました



コレクション・アラカルト展紹介

「コレクション・アラカルト」は、主にコレクション展示室で開催される企画展です。これまで第一展示室と第二展示室が交互に開催されてきましたが、今年度は第一展示室を刷新することとなりました。いよいよ自立変更は展示室の名前です。これまで第一展示室と呼称していましたが、度、開館30周年を機に、サイン計画を大幅に刷新することとなりました。いちばん目立つ変更は展示室の名前です。これまで第一展示室と第二展示室が第3展示室であった数字のズレによる誤解は解消され企画展会場への案内がより円滑になると思われます。一階の第4展示室は「展示室D」となり、石元泰博展示室と県民ギャラリーの変更はあります。そのほか館内説明サインや館内作品のキャラクションなども見直しを進めておりますので、どうぞお見せください。

NEWS
コレクション・アラカルト展紹介

館内標記
リニューアル

当館の館内案内図や展示室名の表示などは、これまで微細な変更を繰り返してきましたが、この度、開館30周年を機に、サイン計画を大幅に刷新することとなりました。いちばん目立つ変更は展示室の名前です。これまで第一展示室と呼称していましたが、度、開館30周年を機に、サイン計画を大幅に刷新することとなりました。いちばん目立つ変更は展示室の名前です。これまで第一展示室と第二展示室が第3展示室であった数字のズレによる誤解は解消され企画展会場への案内がより円滑になると思われます。一階の第4展示室は「展示室D」となり、石元泰博展示室と県民ギャラリーの変更はあります。そのほか館内説明サインや館内作品のキャラクションなども見直しを進めておりますので、どうぞお見せください。

MUSEUM HALL REPORT

冬の定期映画上映会
最強のドキュメンタリー作家 原一男 全作品上映

2024年2月10日(土)～12日(月・祝)美術館ホール
●原監督トーク／2月11日(日)

世界的に高く評価されているドキュメンタリー映画の鬼才、原一男監督をお招きし、上映会にあわせトークを開催しました。一挙に全作品が観られる貴重な機会だったため、県外からかけつけたファンも多く、会場は熱気に包まれていました。上映作品の裏話もたっぷり聞くことができ、その内容を抜粋して紹介します。

文・秦泉寺なほ(当館企画事業課)

最後に話題のは、極貧家庭で育った私が、これまで格差社会で生きてきたが、それではないかということ。作品の主人公は共通して「反権力の人達。現在78歳だが、『水俣病禁制法』をはじめうの作品を同時に制作中。5年以内の完成を目指している。

『全身小説家』
当時売れっ子の純文学作家井上晴光は主人公にした本作のテーマは「虚構」。ドキュメンタリーだから事実ではなく、ドキュメンタリーで権力に挑む。主人公は、戦争を経てたった一人で国家じいた。ドキュメンタリーの分野で、主人公が役を演じているところが非常にユニークである。その点で作は下。ドキュメンタリーではなく劇映画だと見て見てほしい。制作に費やされた3年間は、まるで奥崎さんとの戦いのようだった。

『ゆきゆきて、神軍』
カメラの前、主人公は、戦争を経てたった一人で国家じいた。ドキュメンタリーの分野で、主人公が役を演じているところが非常にユニークである。その点で作は下。ドキュメンタリーではなく劇映画だと見て見てほしい。制作に費やされた3年間は、まるで奥崎さんとの戦いのようだった。

『極私的エロス・恋歌1974』
日本の家族制度に疑問を持つ主人公が、自力出産をする過程を赤裸々に取材している。女の出産の自由(「自分で新しい命を生み出したい」といふ)よりも、カメラに向かわれる側はカメラを意識して演じ、「ほい」と依頼があった「さようならCUP」は、きわめて暴力的なカラーワークだったが、この作品が真逆で、非思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えていきます。今年度の第一回と第二回目では、前年度に展示予定だったシャガールの代表的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第3回では夏の企画展「少女たち」の開催に合わせ、京都で活動した高知出身の「幻の画家たち」中曾根はじめの描いた不思議な美人画《宵闇》など、アラカルトながら一定のテーマ的な版画集《ダフニス・クロエ》を復活展示了します。第4回は昨年度に新しく収性をもたらした作品のお披露目。そして第5回は桃の節句に合わせ、絵画の描いた紙、雛図などを出品予定です。写真ショーガールの油彩画に加え、当館学芸員がお勧めする他作家の作品もラインナップに加えて